

# Press Release

2025年11月20日

報道機関 各位

## 第2回「富山の獅子舞」シンポジウムの開催について（ご案内）

獅子舞と言えば、かつては「男の世界」だったところがほとんどでした。しかし、担い手不足が取り沙汰される昨今、富山県各地の獅子舞祭礼でも、女性の活躍する場が徐々に増えています。ところが、どのレベルで女性が参加しているかを見ると、その程度は実に様々です。また、その背景を詳しく掘り下げるとき、各地区において「自分たちの獅子舞」を守っていくための情熱と工夫とが垣間見えます。この度のシンポジウムでは、各地の獅子舞と深く関わってきた研究者や実践者にご登壇いただき、「獅子舞における女性のいま」をシェアしつつ、さらに来場者の皆様と対話をしながら、獅子舞のこれからについて考える機会とすることをねらっています。

獅子舞に限らず、伝統行事たる祭りには数々のタブーがあり、「女人禁制」もそのひとつでした。しかし、祭りには、時代や状況に応じて柔軟に姿かたちを変えてきたという側面も大きいにあります。女性も参加できる獅子舞を考えることをきっかけに、本シンポジウムが「獅子舞の未来」を考えるひとつの契機となれば幸いです。

つきましては、本催事に関して、取材・報道方よろしくお取り計らい願います。

名 称 : 第2回「富山の獅子舞」シンポジウム

日 時 : 2025年11月23日(日) 14時20分～17時00分(開場:14時00分)

場 所 : 城端別院善徳寺(〒939-1863 富山県南砺市城端405)

※詳細は別添のポスター・プログラムをご参照ください。

### 【本発表資料のお問い合わせ先】

富山大学人文学部文化人類学研究室・芸術文化学部田邊研究室

Email : [jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp](mailto:jinbuns@adm.u-toyama.ac.jp)



# 第2回 富山の獅子舞シンポジウム

## ～女性の参加を考える～

2025年11月23日(日)開催  
開場 14:00 開演 14:20

於・城端別院 善徳寺

(南砺市城端405)

参加  
無料

申込  
不要

主催

富山大学 人文学部文化人類学研究室  
富山大学 芸術文化学部田邊研究室

後援

南砺市  
南砺獅子舞実行委員会

問合せ：富山大学人文学部文化人類学研究室

(野澤 豊一) toyoichi@hmt.u-toyama.ac.jp

作成・坂本唯菜

## 趣旨

獅子舞と言えば、かつては「男の世界」だったところがほとんどでした。しかし、担い手不足が取り沙汰される昨今、富山県各地の獅子舞祭礼でも、女性の活躍する場が徐々に増えてきています。ところが、どのレベルで女性が参加しているかを見ると、その程度は実に様々です。また、その背景を詳しく掘り下げるとき、各地区において「自分たちの獅子舞」を守っていくための情熱と工夫とが垣間見えます。この度のシンポジウムでは、各地の獅子舞とディープにかかわってきた研究者や実践者にご登壇いただき、「獅子舞における女性のいま」をシェアしつつ、さらに来場者の皆様と対話をしながら、獅子舞のこれからについて考える機会とすることをねらっています。

獅子舞に限らず、伝統行事たる祭りには数々のタブーがあり、「女人禁制」もそのひとつでした。しかし、祭りには、時代や状況に応じて柔軟に姿を変えてきたという側面も大きいにあります。女性も参加できる獅子舞を考えることをきっかけに、本シンポジウムが「獅子舞の未来」を考えるひとつの契機となれば幸いです。

## 登壇者紹介



### 諫訪雄士

石川県中能登町小竹 獅子方  
はくい獅子舞保存活性化実行委員会



### 五十嵐友輔

射水市新湊二の丸町獅子舞若連中 獅子方  
放生津地区獅子舞連絡協議会



### 西島千尋

射水市三ヶ獅子舞保存会 雛子方  
金沢大学人間社会研究域

コメンテーター  
田邊元 (富山大学芸術文化学部)

司会  
野澤豊一 (富山大学人文学部)

## プログラム

14:20 挨拶・趣旨説明

諫訪雄士

「地域の獅子舞をどう守っていくか ～能登・氷見の女性参加の事例をもとに～」

五十嵐友輔

「放生津の獅子舞 ～新たな継承へのカタチと若者たちの挑戦～」

(休憩)

西島千尋

「天狗をあきらめた女が語る富山の獅子舞」

コメント：田邊元

(休憩)

総合討論

17:10 閉会の挨拶